

武蔵野書院

中世文学学会会員様向け特設サイト
2022年5月16日～6月30日

このサイトからのご注文に限り書籍を、
学会割引（税込み定価の2割引）＋送料無料
にてご注文いただけます

ご注文方法

1. **A** 書籍名をクリックする。**B** 書籍QRコードを読み取る。
C 最後のページの注文書で、FAXやメール等で注文する。
A～C のいずれかの方法でご注文ください。
2. **A・B** でご注文の際は中世文学学会会員である旨を明記ください。

お支払方法

1. ご注文いただいた書籍をお送りする際に同梱する、郵便振込用紙をご利用いただくか、もしくは、銀行振込にてお支払いください。
その際は振込手数料をご負担いただきます。
2. 公費注文の場合、宛名・日付の有無・納品 / 見積 / 請求書の枚数をお知らせください。

*****ご注文・お問い合わせ先*****

武蔵野書院

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-11

TEL 03-3291-4859 FAX 03-3291-4839

e-mail : info@musashinosho.in.co.jp

**新刊**

武蔵野書院創業百周年記念出版

檜垣 孝 著 **長秋詠藻全評釈 上巻** (全三巻)

本『長秋詠藻全評釈』上中下三巻は、いわゆる第二類本『長秋詠藻』のうち俊成自撰部分四八〇首の全評釈を試みたものであり、本上巻は、いわゆる「久安百首」と「述懐百首」の評釈である。「久安百首」については、先に乗した『俊成久安百首評釈』を利用し、内容には適宜修正加筆を心がけ、注記を本文に繰り入れるよう変更した。なお、「久安百首」は俊成詠の百首歌、『久安百首』は崇徳院主催の百首歌という意味で、括弧の表記を書き分けて示した。「述懐百首」については、その歌題を百首百題形式の『堀河百首』に倣うが、まま歌題が異なっている場合もある。歌題が『堀河百首』と異なる場合はその旨を記し、『長秋詠藻』の他の諸本も参照する。『堀河百首』以前の『古今和歌六帖』『和漢朗詠集』『新撰朗詠集』に該当歌題があるかを調査し、題詠歌としての歌題という観点から、特に「述懐百首」成立以前の歌合作品の歌題についても検討することに務めた。

定価：本体14,500円＋税 判型：A5判上製貼函入仕様 544頁
刊行日：2021年8月19日 ISBN：978-4-8386-0758-7



武蔵野書院創業百周年記念出版

檜垣 孝 著 **長秋詠藻全評釈 下巻** (全三巻)

『長秋詠藻』は、平安時代末期の歌人藤原俊成の私家集（個人歌集）。全三巻からなる。俊成の自選により1178年（治承2年）、守覚法親王に謙譲された。俊成が皇太后宮大夫であったので、皇太后宮を長秋宮というのにちなんで命名された。本書は、いわゆる第二類本『長秋詠藻』のうち、俊成自撰部分四八〇首の全評釈を試みたものである。自撰部分の後に加えられている「右大臣家百首」一〇〇首は、仮名に適宜漢字を当てると読みやすいよう整えた本文のみを掲出するにとどめた。また、本書底本の最後にある奥書も本文のみを掲出するにとどめた。『長秋詠藻』の本文は、『私家集大成』第三巻・中世Ⅰ（明治書院、昭和四九・七）に、『俊成Ⅰ』として収められたものを底本とした。該本は俊成自撰の原型本四八〇首に「右大臣家百首」一〇〇首を加えた五八〇首よりなる第二類本にあたり、藤原定家筆本の臨写本である宮内庁書陵部蔵『長秋詠藻』（五〇一・一七二）を忠実に翻刻したものである。

定価：本体12,500円＋税 判型：A5判上製貼函入仕様 464頁
刊行日：2018年3月31日 ISBN：978-4-8386-0710-5

**最新刊**野中哲章 著 **那須与一の謎を解く**

平家物語でも有名な「扇の的」の名場面。その場面の主役那須与一の名前は知っていても、那須与一がどんな人物か、実は良く知られていない。そんな那須与一の謎を探る。

内容的には学術書ですが、これを一般の方々や学生さんにも読んでいただけるよう、90枚近くの図版（写真、イラスト、地図、図解など）を掲載しました。

定価：本体2,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 306頁
刊行日：2022年5月下旬 ISBN：978-4-8386-0499-9

**新刊**

芝波田好弘 著

方丈記試論

『方丈記』研究史上に新局面を拓く試論を提起する

『方丈記』は作者名の問題も含め、いまだに解釈・理解の相違を多々抱える難物である。本書はその難物の魅力に取り憑かれた著者が、作者試論・諸本と本文の分析・序章と五大災害の記述についての試論など、さまざまな角度から『方丈記』を分析し、検証に次ぐ検証を重ねた雄編である。



定価：本体14,500円＋税 判型：A5判上製力バー装 652頁

刊行日：2021年8月4日 ISBN：978-4-8386-0757-0

中本真人 著 **内侍所御神楽と歌謡**内侍所御神楽は何故
延引と追行を繰り返しながら継続したのか？

本書は、平安朝から南北朝期にかけての内侍所御神楽とその中でうたわれた神楽歌、さらには周辺の儀礼を研究対象とした。本書に収めた論考は、おおむね時代順となっているので、内侍所御神楽の通時的な展開も追っていただけるようになっている。なぜ内侍所御神楽が継続できたのか、その中でどのような変化が起こったのか、本書の先にある課題も見据えつつ、基礎的研究を示したいと考えている。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製力バー装 312頁

刊行日：2020年12月25日 ISBN：978-4-8386-0739-6

陸 晚霞 著 **遁世文学論**

中世的な遁世者像の形成の解明を指向する

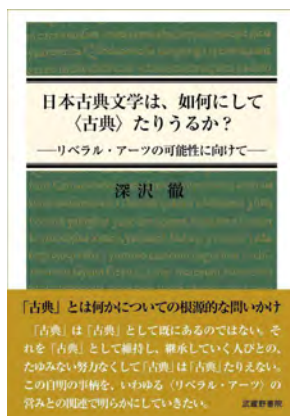
本書は「遁世文学」を一つの経路として、仏教ひいては思想と文学との関係解明に挑もうとするのである。具体的には、遁世の目的はどの辺にあるのか、遁世者像は如何なるものか、中世的遁世観はどうであるのか、その思想的土台となったものはなにか、という一連の問いに答えていきたい。

『方丈記』『発心集』『沙石集』『徒然草』『閑居友』『撰集抄』などの古典文学作品それぞれの個性と共通性を考察することによって、最終的には「遁世文学」とは如何なるものであったかを、作者の思想構造と表現世界との関連の研究を通して明らかにしたい。



定価：本体12,800円＋税 判型：A5判上製力バー装 470頁

刊行日：2020年10月28日 ISBN：978-4-8386-0737-2



深沢 徹 著

日本古典文学は、如何にして〈古典〉たりうるか？ —リベラル・アーツの可能性に向けて—

「古典」とは何かについての根源的な問いかけ

「古典」は「古典」として既にあるのではない。それを「古典」として維持し、継承していく人びとの、たゆみない努力なくして「古典」は「古典」たりえない。この自明の事柄を、いわゆる〈リベラル・アーツ〉の営みとの関連で明らかにしていきたい。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 276頁
刊行日：2021年4月23日 ISBN：978-4-8386-0493-7



高田信敬 著 文献学の栞

本書では、源氏物語から江戸明治の文献を取り扱う。

先学の記述にならって文献学中の二つの柱、文献の具体的吟味と文献の実際的使用を、第一部「典籍叢説」と第二部「訓詁注釈の試み」に振り分け、それぞれに有縁の考証を配した。

作品の言葉を相手とし言葉によって研究を形にする以上、国文学の研究者もまた、言葉の徒でなくてはならない。

文献学の高い目標、少なくともそのひとつは、文献の適切な理解・歪みのない解釈にあるのではないか。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 442頁
刊行日：2020年12月15日 ISBN：978-4-8386-0738-9

田中 登 編著
古筆の楽しみ



古筆切の楽しみ方ハンドブック

集める楽しみ、眺めて悦に入る楽しみ、解説する楽しみ、調べる楽しみ……。古筆見による筆者の鑑定の当否や書写年代、さらにはお宝品としての価値の如何など、たった一枚の古筆切でも、これを様々な観点から愉しむことが出来る。

編著者架蔵の古筆切の写真と11名の専門家による解説を見開き頁で紹介する、古筆切の楽しみ方ハンドブック。

田中 登 編著
続 古筆の楽しみ



定価：本体2,000円＋税
判型：A5判上製カバー装 186頁
刊行日：2015年2月12日
ISBN：978-4-8386-0455-5



定価：本体2,000円＋税
判型：A5判上製カバー装 184頁
刊行日：2017年5月13日
ISBN：978-4-8386-0473-9



小井土守敏・滝澤みか 編 流布本 保元物語 平治物語

「ムサノ世」の到来—

黎明期の武士たちが躍動する姿を余すことなく伝える『保元物語』と『平治物語』を、先人に最も広く読まれた流布本を用いて一冊に収録した。

詳細な校訂本文、読みやすさに配慮したルビ、最新で信頼のおける頭注、さらに底本の挿絵をすべて掲載した完全版。

—解説・年表・系図・地図を付載—

定価：本体1,800円＋税 判型：A5変形判並製カバー装 312頁

刊行日：2019年3月19日 ISBN：978-4-8386-0654-2



大津雄一・平藤 幸 編 平家物語 覚一本 全 改訂版

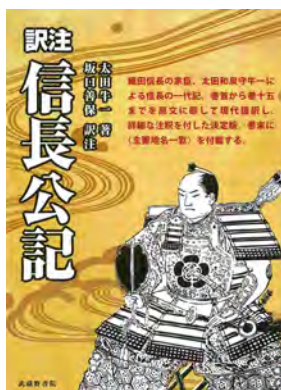
高野本を底本とし、
巻第一から灌頂巻まで『平家物語』全文を1冊に完全収録。

詳細な校訂本文に加え、読みやすさに配慮したルビをできる限り多く振って、さらに最新で信頼のおける頭注を付した、『平家物語』決定版！

—簡便な系図・年表・図録・地図をも付載—

定価：本体2,000円＋税 判型：A5変形判並製カバー装 504頁

刊行日：2014年9月30日 ISBN：978-4-8386-0650-4



太田牛一 著・坂口善保 訳注 訳注 信長公記

本書『訳注 信長公記』は、『信長公記』（以下『公記』）の巻首から巻十五までの全巻を原文に即して現代語訳したのみならず、874箇所にあぶ詳細な〔注記〕が施されている。

例えば、「あるとき」というのは、いったい何年のことなのかをわかりやすく和暦と西暦で示して史実と結びつけたり、単なる現代語訳では読み飛ばしてしまいがちな登場人物についての解説や、当時の人々には常識であるが故に、わざわざ『公記』には書かれていない史実や、事件が起きた舞台の裏側が補足説明されているため、現代語訳とこの〔注記〕を併せ読むことにより、現代人にも無理なく通じる『公記』の現代語訳が達成される。

今まで、『公記』の現代語訳はあまた刊行されているが、それらとはあきらかに一線を画す決定版が、本書『訳注 信長公記』である。

定価：本体2,900円＋税 判型：A5判並製カバー装 408頁

刊行日：2018年4月20日 ISBN：978-4-8386-0478-4



武井和人 著

十市遠忠和歌典籍の研究

室町時代の武将・歌人、十市遠忠の和歌典籍の研究書。

南都における典籍流通、詠草、歌合・自歌合、古典籍書写者および歌詠みとしての遠忠、遠忠文献などについて論じる。

研究篇 602頁、資料篇上・754頁、資料篇下・714頁の大ボリューム三分冊で構成される、約40年の永きに亘る著者畢生の研究成果をここに刊行する。

定価：本体34,545円＋税

判型：A5判上製函入三分冊（分売不可）

研究篇：602頁 資料篇上：754頁 資料篇下：714頁

刊行日：2020年2月29日 ISBN：978-4-8386-0727-3



小田 剛 著 拾遺愚草、下（部類歌）、四季歌注釈

本稿は、拾遺愚草、下の部類歌の春、夏、秋、冬（四季）歌・2026～2378の注釈である。底本は定家自筆本（『冷泉家時雨亭叢書』）に拠り、歌番号は、『藤原定家全歌集（冷泉為臣編）』に従った。著者の前著『藤原定家名歌注釈』（武蔵野書院、2015年）に比べ、本書は、著者の今までの研究を集成する形としたため、例歌も多く挙げて、より詳しい注釈書となっている。

〔目次〕

凡 例

拾遺愚草、下部類哥

春 2026 (2126) ~ 2094 (2196)

夏 2095 (2197) ~ 2129 (2232)

秋 2130 (2233) ~ 2301 (2404)

冬 2302 (2405) ~ 2378 (2487)

付記・初句索引

定価：本体8,000円＋税 判型：A5判上製函入 432頁

刊行日：2016年11月21日 ISBN：978-4-8386-0700-6



小田 剛 著

拾遺愚草、下（部類歌）、賀、戀、
雜（旅、述懷、無常、神祇、釋教）歌注釈

本書は、前著（『拾遺愚草、下（部類歌）、四季歌注釈』）に続く、賀、戀、雜（旅、述懷、無常、神祇、釋教）歌の注釈である

〔目次〕

凡 例

拾遺愚草下 部類哥

賀 2379 (2488) ~ 2411 (2532)

戀 2412 (2533) ~ 2539 (2672)

雜、旅 2540 (2673) ~ 2568 (2703)

雜、述懷 2569 (2704) ~ [2613] (2767)

雜、無常 [2614] (2768) ~ 2698 (2890)

雜、神祇 2699 (2891) ~ 2732 (2924)

雜、釋教 2733 (2925) ~ 2791 (2985)

付記・初句索引

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製函入 512頁

刊行日：2017年8月30日 ISBN：978-4-8386-0704-4



木本好信・樋口健太郎 編

宮内庁書陵部蔵柳原本 朔旦冬至部類 影印と翻刻

本書は、宮内庁書陵部が所蔵する 柳原家旧蔵の『朔旦冬至部類』（架蔵番号・柳三六四）を、書陵部の許可を得て、影印、全文翻刻し、末尾に人名索引と解説にかわる「朔旦賀表と朔旦冬至—宮内庁書陵部蔵柳原本『朔旦冬至部類』にふれて—」と題する小論を付したものである。柳原本『朔旦冬至部類』は、他の朔旦冬至に関する部類記に相違して、多くの未紹介の貴重な逸文が所収されている。例えば、寛治二年の朔旦冬至の「師平記」「江記」「季仲記」「為房卿記」「時範記」などは『大日本史料』に未収で貴重な逸文である。これ以外の永承五年・嘉承二年・大治元年条に引かれる「外記」「広宗記」「敦光記」「師遠記」なども同様に貴重な条文であり、宮内庁書陵部のHP「画像公開システム」で閲覧できるとはいえ、翻刻のうえ刊行することは意義あることと考えられる。

定価：本体8,300円＋税 判型：A5判上製力バー装 256頁

刊行日：2018年6月15日 ISBN：978-4-8386-0711-2



中野方子 著 三稜の玻璃

—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—

平安朝文学、漢文学、仏典が交叉し生み出す、複雑な光の饗宴

三稜の玻璃（プリズム）を透過した白色光は、七色の彩となって現れる。古のことも、三稜の玻璃を通して、これまでとは異なる始原の相貌をもって輝き出すのではないか。業平、貫之、友則、伊勢の和歌や『伊勢物語』、『源氏物語』を中心とした平安朝文学と漢詩文、仏典という三面のジャンルが交叉し、交響し合う論文集

定価：本体14,000円＋税 判型：A5判上製力バー装 460頁

刊行日：2021年3月10日 ISBN：978-4-8386-0745-7



藤井由紀子 著

異貌の『源氏物語』

『源氏物語』とは何か

『源氏物語』には、膨大な研究史があるにもかかわらず、いまだ解釈が揺れている箇所が存在する。一方、批判的な検証を経ないまま定説化している言説もある。それらの箇所を、「ことば」一語一語に拘り、精緻な本文解釈を目指して再検討をし、既存の〈読み〉の見直しを図りつつ、さらに「もののけ」「魂」「夢」「猫」といった事象を通して、『源氏物語』に描かれた「心」の問題に迫る。

中古・中世の物語文学を研究してきた著者はじめての論文集。

定価：本体8,000円＋税 判型：A5判上製力バー装 284頁

刊行日：2021年5月10日 ISBN：978-4-8386-0749-5



最新刊

毛利香奈子 著

いはでしのぶ物語の研究

—王朝物語文学の終焉—

『いはでしのぶ』という物語のなんたるかを問う

後嵯峨院時代に作られたとされるこの物語をはじめ、中世王朝物語は、『源氏物語』などの「模倣」として軽く扱われてしまうことが多い。この物語を精査し、「研究史」を問い、第一部では「見ること、似ること」のその双方の関係を捉えなおし、第二部では「手紙」という重要なアイテムから、物語の前半と後半での担う役割に注目し、第三部では「琴」と「笛」といった「楽器」や音楽からその背後にある皇統に触れ、第四部では物語の中心人物である「一品宮」について論じる。真正面から『いはでしのぶ物語』に挑んだ一書。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 320頁
刊行日：2022年1月31日 ISBN：978-4-8386-0764-8



最新刊

伊藤禎子 編著

うつほ物語—国譲巻の世界

『うつほ物語』「国譲」巻「らしさ」とは何か？

前半「本文鑑賞編」で、『うつほ物語』「国譲」巻を読むために読んでおきたい場面を紹介。場面の選定は「国譲」巻への繋がりを意識して、それぞれの場面には簡単なリード文を附し、読みやすくなるような現代語訳をつけた。また、各文の最後には『うつほ物語』読解のポイントを「鑑賞・説明」としてまとめたので、それぞれの場面を読む際の参考となろう。後半「論文編」では編著者をはじめ、ともに学んだ若手研究者の論文計七編を収録、日頃の研鑽の成果を公刊する。

定価：本体8,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 298頁
刊行日：2021年11月24日 ISBN：978-4-8386-0763-1



最新刊

吉海直人 著

源氏物語桐壺巻論

源氏物語桐壺巻深読みのススメ

本書は、第一部 人物論Ⅰ（主要人物）・第二部 人物論Ⅱ（脇役）・第三部 表現論（特殊表現）の三部立てで構成される。源氏物語桐壺巻を立体的かつ深く読み進めることを企図した、著者三十年に亘る研究の成果である。

定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 324頁
刊行日：2021年11月1日 ISBN：978-4-8386-0498-2



林田先生 畢生のお仕事を全四巻の著作集に集約！
圧巻の計1388頁

林田孝和著作集

各巻定価：本体5,700円＋税 判型：A5判上製函入

刊行日：2021年5月15日

著者：林田孝和

編者：竹内正彦・津島昭宏・太田敦子

春日美穂・畠山大二郎



第一巻 源氏物語の発想

360頁 ISBN：978-4-8386-0750-1



第二巻 源氏物語の精神史研究

312頁 ISBN：978-4-8386-0751-8



第三巻 源氏物語の創意

360頁 ISBN：978-4-8386-0752-5



第四巻 王朝文学の精神史研究

356頁 ISBN：978-4-8386-0753-2



山下太郎 著 王朝日記物語の展開—歌物語と日記物語—

新しい古典としての歌物語と日記物語

第一部には、歌物語に関連する四編の論を、また第二部には、日記物語を取り上げた十一編の論を収載した。検証作業に一貫するものは、読書の渉獵による諸説の丹念な吟味、定説への挑戦と妥協の排除である。『和泉式部日記』を中心に据え、著者21年間に亘る研究成果を一冊に凝縮した。



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 352頁

刊行日：2021年7月26日 ISBN：978-4-8386-0756-3

廣田收先生 源氏物語研究三部作



廣田 收 著 表現としての源氏物語

平安京の物語の表現とは何か

つまり、平安京の物語とは、『源氏物語』をひとつの極とする一方（互いに影響関係の希薄な）『宇治大納言物語』をもうひとつの極とするであろう。すなわち『枕草子』が興味を示し、記録している物語の中で、（『宇津保物語』や『住吉物語』などを除いて）群小物語がひとつの核をなすまでには至らないとするのであれば、平安京の物語とは、そのような二極を含む、緩やかな楕円的な世界を意味するであろう。 そのように考えることで本書において、ようやく説話としての『宇治拾遺物語』、『宇治大納言物語』をも対象とすることができる。つまり、本書は「表現としての源氏物語」と題しているが、内容からいうと『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『宇治拾遺物語』を、かろうじて「平安京の物語」として捉えることが見通せるのではないかという目論見を隠している。



定価：14,000円＋税 判型：A5判上製力バー装 602頁
刊行日：2021年6月23日 ISBN：978-4-8386-0755-6

廣田 收 著 文学史としての源氏物語

紫式部という存在を睨み据えつつ…

わが国文学研究のめざすところは、日本的な精神や心性 mentalityの解明だけではないし、逆に普遍的な元型arche-typeの発見だけでもない。まさに『源氏物語』がどのような仕掛けや仕組みによって構築された本文であるかを明らかにすることを目的とする、と言挙げすればよいのではないかと。

ひとことで言えば、紫式部という存在を睨み据えながら、古代の古代、古代の近代との併存する本文としての『源氏物語』を、基層と表層との重層性において捉えるという目論見である。



定価：本体11,000円＋税
判型：A5判上製力バー装 352頁
刊行日：2014年9月26日
ISBN：978-4-8386-0276-6

廣田 收 著 古代物語としての源氏物語

『源氏物語』を「古代文学として読む」という立場

「研究として『源氏物語』をどのように読むのか」というとき、こう読まなければならないという決まった読み方が最初からあるはずもないが、ただ単に恣意的な読みを披露し、散漫な感想を述べるだけでは『源氏物語』の研究としての読みに共感を得られないであろう。

なぜならば、私的な読みに思わず知らず現代的もしくは近代的な基準による解釈が紛れ込む可能性があるからである。『源氏物語』を「古代物語として読む」という立場である。



定価：本体11,000円＋税
判型：A5判上製力バー装 368頁
刊行日：2018年8月25日
ISBN：978-4-8386-0712-9



斎藤達哉 著 国語仮名表記史の研究

膨大な古典仮名資料の分析から日本語学の文字・表記史に挑む

本書『国語仮名表記史の研究』は、仮名主体で表記された古典日本語の文章である「仮名資料」を調査対象として、日本語学の文字・表記史の分野に立脚した、「仮名資料の文字調査」、「語と用字との関係」、「字体認識と書写態度」の観点から四部構成で論じたものである。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製力バー装 420頁
刊行日：2021年2月16日 ISBN：978-4-8386-0741-9

日本語学会論文賞叢書 新たに誕生！



新刊

服部紀子 著

日本語学会論文賞叢書1

「格」の日本語学史的研究

—江戸期蘭文典と国学からの影響—

日本語学会論文賞叢書 第1弾！

江戸時代におけるオランダ語学史については、先人によって新たな視点での研究が始められている。しかしそのような中で、オランダ語学を通して見出された日本語観、言い換えると、オランダ語との対照言語学的視点によって得られた日本語の見方については、考察すべき余地があるように思われる。特に、それまで日本では意識されることのなかった格は、オランダ語を通して意識されるようになった。江戸時代の蘭学者がオランダ語における格 (naamvallen) という概念をどのように理解し、またそれが日本語観にどう影響したのか。本書では、『六格前篇』と『和蘭語法解』の2冊の蘭文典を取り上げる。蘭文典から『語学新書』の格理解への過程を、近代文法学説に見られる格研究の前史として位置づけることが本研究の目的である。

定価：本体8,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 192頁
刊行日：2021年9月17日 ISBN：978-4-8386-0759-4



最新刊

菊地恵太 著

日本語学会論文賞叢書2

日本略字体史論考

日本語学会論文賞叢書 第2弾！

本書は、日本における略字体（規範とされる漢字字体に対して筆画が簡略になった漢字字体）を対象として、その使用状況にいかなる変化が生じていたかを明らかにし、漢字字体史の通史的記述を試みるものである。特に、従来明らかにされていなかった略字体の使用実態の歴史を把握し、非規範的世界における漢字字体史の一端を明らかにすることを目的として、文献調査と考察を進める。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 288頁
刊行日：2022年1月31日 ISBN：978-4-8386-0766-2



最新刊

松倉昂平 著

日本語学会論文賞叢書3

福井県嶺北方言のアクセント研究

日本語学会論文賞叢書 第3弾！

長らく福井県嶺北地方はアクセント研究の空白地帯であり、本地方を含む福井県方言のアクセントを詳しく記述した文献（図書）は皆無に等しい。そのような状況にあって、本書は福井県方言のアクセントの詳細を明らかにする初めての本格的な研究書となる。

定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 312頁
刊行日：2022年5月9日 ISBN：978-4-8386-0767-9



最新刊

今野真二 著

豊島与志雄『未来の天才』

—自筆原稿二種の影印・翻刻・解説—

二種類の自筆原稿が示すもの

豊島与志雄「未来の天才」の「第二の自筆原稿」が見つかった。『人間』第三巻第七号に掲載された「未来の天才」のもととなった「流布本自筆原稿」をすでに所持していた著者はこれ入手。この二つの自筆原稿から豊島の何が読み取れるのか？ 本書ではその二種の影印を公開し、それぞれを翻刻した上で解説を加えることにより、著者独自の細かい観察の結果をここに提示する。

定価：本体9,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 418頁

刊行日：2022年1月25日 ISBN：978-4-8386-0765-5



今野真二 著 テキストの変容—動態としてのテキスト

明治から昭和にかけて成立したテキストを共時的に観察する

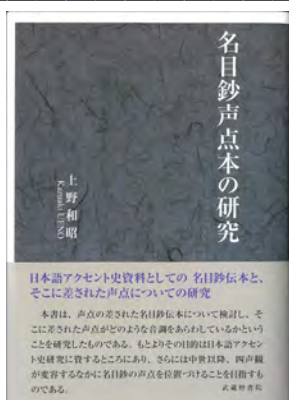
言語化されていない「情報」が言語化というプロセスを経て、言語となってかたちをあらわす。言語単位でいえば、語をかたちづくり、語によって文をかたちづくり、文がまとまって文章、テキストとなる。

本書では、そのテキストが「書き手」やその他の事柄によってかたちを変えていくということについて、夏目漱石、岸田國士、島崎藤村、齋藤茂吉、森鷗外、江戸川乱歩にかかわるテキストを採りあげて、言語面から分析、考察を試みる。



定価：本体11,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 516頁

刊行日：2021年5月7日 ISBN：978-4-8386-0748-8



新刊

上野和昭 著

名目鈔声点本の研究

日本語アクセント史資料としての名目鈔伝本と、そこに差された声点についての研究

本書は、声点の差された名目鈔伝本について検討し、そこに差された声点がどのような音調をあらわしているかということを研究したものである。もとよりその目的は日本語アクセント史研究に資するところがあり、さらには中世以降、四声観が変容するなかにな目鈔の声点を位置づけることを目指すものである。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 432頁

刊行日：2021年10月8日 ISBN：978-4-8386-0760-0

**最新刊**

朝山智子 著

タカラヅカ 百年の芸名

百年を超えるタカラヅカを彩ってきた「芸名」を多角的に考察する！

大正時代から「タカラヅカ」の舞台で活躍してきた数多の「タカラジェンヌ」。本書では1期生から100期生までの全4426人の芸名のデータベースを作成し、時代ごとにその傾向を掘む。

大正期の百人一首に由来する芸名は、掛詞や縁語、文字遊びなど言語遊戯的な要素を多分に活用し、昭和期以降の芸名も、一般の命名ではない姓をつくり、名と組み合わせる考案するところに、音と文字の使い方の妙味が表れる命名法だった。

その分析から導き出された各時期の特徴は、「男役の芸名」や「キラキラネーム」などのトピックを立て考察を加える。

定価：本体3,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 332頁
刊行日：2021年10月14日 ISBN：978-4-8386-0497-5

**第31回柿衛賞 受賞！！****最新刊**

金子はな 著

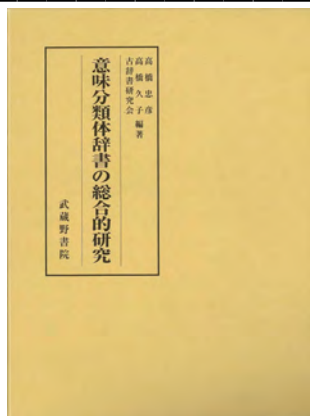
惟然・支考の「軽み」

—芭蕉俳諧の受容と展開—

蕉門俳人、広瀬惟然と各務支考における「軽み」の展開を明らかにする

第一部「芭蕉の「軽み」解釈」では、近代以降現在までの「軽み」研究文献において、何が「軽み」とされてきたのかを探り、その問題点を指摘したうえで、新たな視座を提示する。第二部「惟然における軽みの展開」では、芭蕉入門後の惟然が芭蕉との関係をどのように築き、また芭蕉がさかんに説いた「軽み」をどのように受容したのかを、具体的な事実と作品に基づいて検討する。第三部「支考における軽みの展開」では、同門俳人からの攻撃によって長らく「俗臭の多い野心家」という先入観のもとに、信頼に値しない人物として語られてきた支考を取り上げ、惟然とともに「軽み」唱導期の芭蕉に随時した支考の経歴と俳論を整理して、その言説は芭蕉の教導につながるものであることを示した。本書では三部八章にわたり、惟然・支考と芭蕉の「軽み」との関わりを中心とした論を展開し、全体の総括は巻末の「おわりに」において行った。

定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 348頁
刊行日：2021年11月17日 ISBN：978-4-8386-0761-7

**最新刊**高橋忠彦・高橋久子
古辞書研究会 編著**意味分類体辞書の総合的研究**

本書の作成刊行の目的は、第一に、中世の多くの古辞書の形成、発展、変化に於いて、意味分類体辞書すなわち和名集類が、いかに多大な影響を与えたかを明らかにすることである。第二に、その和名集類に属する、家蔵の文献二種（ここでは「慶長本頼要集」と「高橋本和名集」と名付ける）を、新出資料として紹介することである。

第一の点を扱ったのが、第一部「意味分類体辞書の研究」にまとめた諸論文である。

第二の新出資料については、第二部「慶長本頼要集の研究」の諸論文、第三部「高橋本和名集の研究」及び、それぞれの「影印」、「翻字本文」、「注釈」、「語彙索引」、「漢字索引」が扱っている。

2016年刊行の『いろは分類体辞書の総合的研究』に続き、豊富な資料と30本に及ぶ論文から成る大著。

定価：本体27,500円＋税 判型：A5判上製函入 上674頁 下828頁
刊行日：2021年12月10日 ISBN：978-4-8386-0762-4



飯泉健司 著 文学に旅する

循環しながら展開する文学とは？

内と外、都と鄙、王権と民、中心と周辺、既知世界と未知世界。それらの中間に作者と作品は位置して、二つの世界を往還する。流転に近い生態があるからこそ、文学は循環しながら展開する。そのようなサイクルの中で、作者のみならず読者も旅を続ける。……本書はそのような旅をする試みである。



定価：本体5,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 378頁
刊行日：2021年7月26日 ISBN：978-4-8386-0495-1



武蔵野書院創業百周年記念企画

東原伸明・ローレン・ウォーラー・ヨース・ジョエル・高西成介 編著
万葉集の散文学—新元号「令和」の間テキスト性

『万葉集』の間テキスト性＝テキスト論的研究を提案

第一部は、高知県立大学の教員に、万葉学者の上野誠氏を招聘し敢行した新元号「令和」の典拠をめぐるシンポジウムの模様を収録。第二部は、『万葉集』のテキスト論的な実践、『文選』の日本における受容の論、元号をめぐっての政治的な思想論を展開。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 354頁
刊行日：2021年6月25日 ISBN：978-4-8386-0494-4



武蔵野書院創業百周年記念企画

東原伸明・山下太郎 編著
大和物語の達成—「歌物語」の脱構築と散文叙述の再評価

大和物語の再評価

大和物語は従来、伊勢物語と共に「歌物語」というジャンルで一括されてきた。しかし、その括りで一括することが、果たして適正であったか。脱構築し、「歌」じたいの位相を見極め、「散文」への方法性を模索することなど再検討の時機に来ている。本書は、大和物語のじたいの達成を見極め、再評価することを希求する。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 400頁
刊行日：2020年5月20日 ISBN：978-4-8386-0490-6

第31回高知出版学術賞 受賞

井上次夫・高木史人・東原伸明・山下太郎 編

次世代に伝えたい新しい古典

—「令和」の言語文化の享受と継承に向けて

上代文学の「古事記」から近代文学「土」までの日本文学に、国語教育、日本文化に「令和」の視点からいま、新しい光を当てる。

I「古典文学」では、一六の論考と古典漢文の視点による一つの論考の計一七の論考で、II「国語教育」は日本の学校教育における四つの論考で、III「日本文化」は、新しい古典が成立する基盤ともなる日本の社会に根付いている文化という視点による三つの論考で構成しました。これらの論は、全く初めての「新たな発見（新発見）」とは限らないが、「改めでの発見（再発見・再認識）」となるだろう。本書を通じてこれまで知らなかった、気づかなかった新たな古典の世界に興味・関心・問題意識を持ち、古典文学を手にとってもらう。そのことが古典なるものを古典たるものとして次世代に受け継いでいく契機になる。

定価：本体2,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 272頁
刊行日：2020年3月10日 ISBN：978-4-8386-0655-9



高橋秀城 著 法の水茎—和歌とおはなしでひもとく仏教—

高尾なる緑もふかき法の山飯繩の御威永遠に変わらじ

いにしへの和歌や説話、古典文学には仏様の教えがちりばめられている。また、その教えをもとに書かれた作品も少なくない。

本書はこれらの古典作品を手がかりとして、仏教の奥深い教えに近づくことを目的として書かれた、ひとつの道しるべ。

高尾山薬王院発行の『高尾山報』に、普濟寺住職である著者が、八年に亘って連載している『法の水茎』1～100話をこの一冊に収録。悩み多き現代人に贈る、言わば百話の心の処方箋。住職ならではの優しい語り口が、読者を仏の御心へと誘う。

定価：本体3,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 452頁
刊行日：2021年3月11日 ISBN：978-4-8386-0492-0



京都と文学研究会 編 ものがたりたちの京都 京都文学入門

人間と地域の関係が問い直されている今——専門的知見から、京都文学、ひろくは、地域文学を読むことの価値を解き明かす！

記紀萬葉—宇治と恭仁京の『萬葉集』・池原陽斉／『古今和歌集』—歌枕でたどる京の都・恵阪 友紀子／『源氏物語』—光源氏の「涙の滝」と義経の「涙の滝」・須藤 圭／京都と説話・松山 由布子／『徒然草』—「都人」兼好の足跡をたどって・鈴木 耕太郎／『都名所図会』—名所図会の文学性とその基盤・藤川玲満／京都と芸能・川端咲子／梶井基次郎「檸檬」—奇怪な城の〈遊戯人〉・村田裕和／三島由紀夫『金閣寺』—観光都市京都という〈場〉から考える・田中裕也／川端康成『古都』—文学から見る京都の諸相・池田啓悟／京都と映画文化・佐藤未央子／森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』—「路地」への期待と「偽京都」・熊谷昭宏／『けいおん!』『たまこまーけっと』—アニメに描かれた京都・禊美智章

定価：本体1,500円＋税 判型：四六判並製カバー装 228頁
刊行日：2019年10月12日 ISBN：978-4-8386-0484-5



山田利博 著 文学としてのマンガ

平安文学の専門家が、裏専門のマンガ・アニメを語る！

文学とはなにか。それは「作者」が「想像力」によって「虚構の世界を作り」「思想」や「感情」を表現したものではないのか。絵であらわされているか、文字であらわされているかはさほど問題ではない。その証拠として、マンガは特に古典文学に通ずるところがある。『セーラームーン』は『竹取物語』、『魔法少女もの』や『CITY HUNTER』などには「異界」の面影がある。古典と称される文学が有形無形に今に影響を与え、マンガやアニメに奥行を与えてゆく。マンガを読もう。あわせて古典などの文学も読もう。それがどちらもさらに面白く読むコツだといえよう。著者が時間をかけて楽しんだ結果を皆様に。

定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 248頁
刊行日：2020年3月26日 ISBN：978-4-8386-0488-3



田村由美子 著 日本文学の原風景

いにしへの史跡を旅し
日本の風土に深く根差した
古典文学の原風景を逍遙する

「旅」で訪れた現地の風景に、日本の古典文学作品の原風景を発見し、さらに、著者の古典学習の原点である『源氏物語』についての気づきを独自の切り口と多様な視点から探究する。くわえて、これら古典文学の背景にある日本独特の文化を、アメリカ人に紹介した文化交流の実践記録としてまとめた。

定価：本体3,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 364頁
刊行日：2020年11月22日 ISBN：978-4-8386-0491-3



三上 満 編著 歌めき 三上満贈答歌集

歌による会話という、王朝和歌のたしなみ
復権の願いを込めて世に問う贈答歌集

教員生活の掉尾を飾るべく？ とある女子校に産休代用教員として赴任した著者が、生徒との日常のふれあいを通して生みだした詩的結晶ともいえる贈答歌を中心に、人との絆を求めて作り重ねた、半生の詠作をまとめた珠玉の短歌集。

定価：本体800円＋税 判型：A5変形判並製カバー装 134頁
刊行日：2021年9月9日 ISBN：978-4-8386-0496-8

注文書 Fax 03-3291-4839

Mail : info@musashinosho.in.co.jp

この注文書でご注文いただければ、学会割引（税込定価の2割引＋送料無料）を適用させていただきます（2022年6月30日まで）

書籍名	価格	部数	公費・私費
長秋詠藻全評釈 上巻	本体：14,500円＋税	部	公費・私費
長秋詠藻全評釈 下巻	本体：12,500円＋税	部	公費・私費
那須与一の謎を解く	本体：2,000円＋税	部	公費・私費
方丈記試論	本体：14,500円＋税	部	公費・私費
内侍所御神楽と歌謡	本体：12,000円＋税	部	公費・私費
遁世文学論	本体：12,800円＋税	部	公費・私費
日本古典文学は、如何にして「古典」たりうるか？—リベラル・アーツの可能性に向けて—	本体：3,000円＋税	部	公費・私費
文献学の葉	本体：12,000円＋税	部	公費・私費
古筆の楽しみ	本体：2,000円＋税	部	公費・私費
続 古筆の楽しみ	本体：2,000円＋税	部	公費・私費
流布本 保元物語 平治物語	本体：1,800円＋税	部	公費・私費
平家物語 覚一本 全 改訂版	本体：2,000円＋税	部	公費・私費
訳注 信長公記	本体：2,900円＋税	部	公費・私費
十市遠忠和歌典籍の研究	本体：34,545円＋税	部	公費・私費
拾遺愚草、下(部類歌)、四季歌注釈	本体：8,000円＋税	部	公費・私費
拾遺愚草、下(部類歌)、賀、戀、雜(旅、述懐、無常、神祇、釈教)歌注釈	本体：10,000円＋税	部	公費・私費
宮内庁書陵部蔵柳原本 朔旦冬至部類 影印と翻刻	本体：8,300円＋税	部	公費・私費
三稜の玻璃—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—	本体：14,000円＋税	部	公費・私費
異貌の『源氏物語』	本体：8,000円＋税	部	公費・私費
いはでしのぶ物語の研究—王朝物語文学の終焉—	本体：10,000円＋税	部	公費・私費
うつほ物語—国譲巻の世界	本体：8,000円＋税	部	公費・私費
源氏物語桐壺巻論	本体：3,000円＋税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第一巻 源氏物語の発想	本体：5,700円＋税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第二巻 源氏物語の精神史研究	本体：5,700円＋税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第三巻 源氏物語の創意	本体：5,700円＋税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第四巻 王朝文学の精神史研究	本体：5,700円＋税	部	公費・私費
王朝日記物語の展開—歌物語と日記物語—	本体：11,000円＋税	部	公費・私費
表現としての源氏物語	本体：14,000円＋税	部	公費・私費
文学史としての源氏物語	本体：11,000円＋税	部	公費・私費
古代物語としての源氏物語	本体：11,000円＋税	部	公費・私費
国語仮名表記史の研究	本体：12,000円＋税	部	公費・私費
日本語学会論文賞叢書1「格」の日本語学史的研究—江戸期蘭文典と国学からの影響—	本体：8,000円＋税	部	公費・私費
日本語学会論文賞叢書2 日本略字体史論考	本体：10,000円＋税	部	公費・私費
日本語学会論文賞叢書3 福井県嶺北方言のアクセント研究	本体：11,000円＋税	部	公費・私費
豊島与志雄『未来の天才』—自筆原稿二種の影印・翻刻・解説—	本体：9,500円＋税	部	公費・私費
テキストの変容—動態としてのテキスト	本体：11,500円＋税	部	公費・私費
名目鈔声点本の研究	本体：12,000円＋税	部	公費・私費
タカラヅカ 百年の芸名	本体：3,500円＋税	部	公費・私費
惟然・支考の「軽み」—芭蕉俳諧の受容と展開—	本体：11,000円＋税	部	公費・私費
意味分類体辞書の総合的研究	本体：27,500円＋税	部	公費・私費
文学に旅する	本体：5,000円＋税	部	公費・私費
万葉集の散文学—新元号「令和」の間テキスト性	本体：3,000円＋税	部	公費・私費
大和物語の達成—「歌物語」の脱構築と散文叙述の再評価	本体：3,000円＋税	部	公費・私費
次世代に伝えたい新しい古典—「令和」の言語文化の享受と継承にむけて	本体：2,000円＋税	部	公費・私費
法の水荃—和歌とおはなしでひもとく仏教—	本体：3,500円＋税	部	公費・私費
ものがたりたちの京都 京都文学入門	本体：1,500円＋税	部	公費・私費
文学としてのマンガ	本体：2,000円＋税	部	公費・私費
日本文学の原風景	本体：3,000円＋税	部	公費・私費
歌めき 三上満贈答歌集	本体：800円＋税	部	公費・私費
ご注文者		公費の場合	
お名前	お電話番号	お宛名	
ご送付先 〒		公費伝票類	
		日付有無	あり・なし 納品書 通
		見積書	通 請求書 通